

2 主要死因別粗死亡率の状況

(1) 年次推移

明治から現在に至る主要死因の粗死亡率（人口 10 万対）の推移をみると図 1 のとおりである。

明治から大正・昭和初期にかけては、「結核」、「肺炎」や「胃腸炎」など感染症が主であった。

「肺炎」は、大正 7～9 年にかけて「インフルエンザ」の大流行があり、その影響で高い粗死亡率を示している。

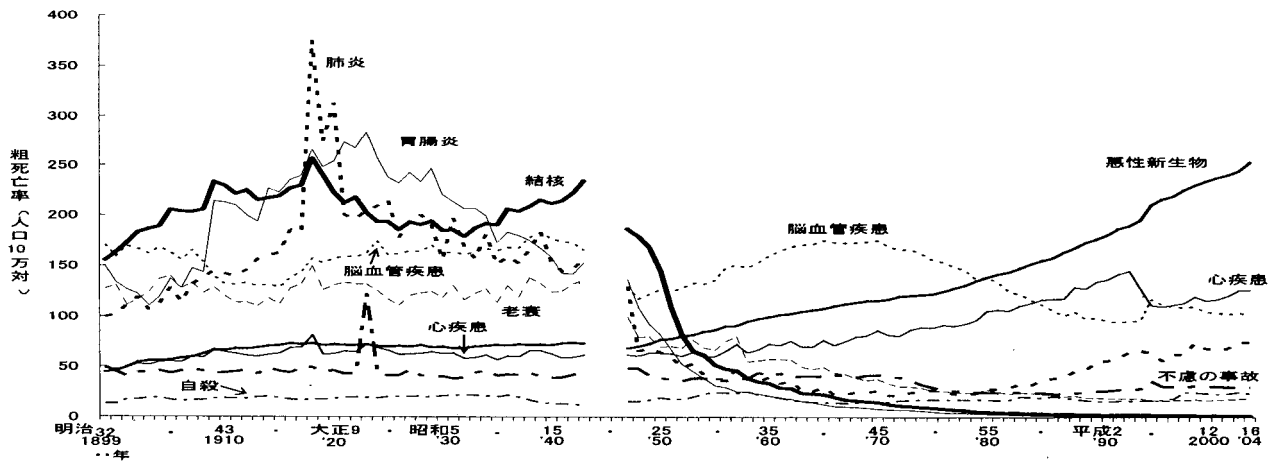
また、「不慮の事故」では、大正 12 年の関東大震災により粗死亡率が高くなっている。

その後、昭和 20 年代後半に感染症の粗死亡率は急速に低下し、かわって現在の三大死因である「悪性新生物」「心疾患」（平成 7 年以降の「心疾患」は「心疾患（高血圧性を除く）」である。以下同じ。）「脳血管疾患」が主たる死因となった。

「心疾患」は、平成 7 年 1 月施行の新しい死亡診断書において、「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響により平成 6 年に低下しているが、それ以降上昇傾向にある。

「脳血管疾患」は、昭和 40 年代をピークに低下傾向ではあるが、低下の幅は小さくなってきており、近年は低下から横ばい傾向となっている。（図 1、統計表第 1 表）

図 1 主要死因別にみた粗死亡率(人口 10 万対)の年次推移



注：平成 6 年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成 7 年 1 月 1 日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響によるものと考えられる。

(2) 平成 16 年の状況

平成 16 年の状況をみると、全死亡数 103 万人のうち、「心疾患」は 16 万人、「脳血管疾患」は 13 万人となっており、両者を合計すると 29 万人となり「悪性新生物」に近い死亡数となっている（表 1）。

表 1 性別にみた主な死因別死亡数・粗死亡率(人口 10 万対)・年齢調整死亡率(人口 10 万対) - 平成 16 年 -

死 因	死亡数			粗死亡率(人口 10 万対)			年齢調整死亡率(人口 10 万対)	
	総数	男	女	総数	男	女	男	女
全死因	1 028 602	557 097	471 505	815.2	904.4	730.1	588.3	297.1
悪性新生物	320 358	193 096	127 262	253.9	313.5	197.1	202.0	99.2
心疾患	159 625	77 465	82 160	126.5	125.8	127.2	80.6	44.2
急性心筋梗塞	44 463	24 180	20 283	35.2	39.3	31.4	25.3	11.5
その他の虚血性心疾患	26 822	14 834	11 988	21.3	24.1	18.6	15.5	6.7
不整脈及び伝導障害	20 274	10 070	10 204	16.1	16.3	15.8	10.7	5.7
心不全	51 588	21 047	30 541	40.9	34.2	47.3	21.2	14.9
脳血管疾患	129 055	61 547	67 508	102.3	99.9	104.5	62.5	37.0
くも膜下出血	14 737	5 543	9 194	11.7	9.0	14.2	6.6	7.4
脳内出血	32 060	17 643	14 417	25.4	28.6	22.3	19.0	9.3
脳梗塞	78 683	36 697	41 986	62.4	59.6	65.0	35.1	19.2
肺炎	95 534	51 306	44 228	75.7	83.3	68.5	48.8	20.4
不慮の事故	38 193	23 667	14 526	30.3	38.4	22.5	28.7	11.1

注：粗死亡率、年齢調整死亡率については、P48「比率の解説」を参照。

3 死因順位の年次推移

死因順位の年次推移をみると、「心疾患」は、昭和30年～32年が第4位、昭和33～59年が第3位、昭和60年以降は平成7年・8年を除いて第2位と順位が上昇してきている。

一方、「脳血管疾患」は、昭和26年から「結核」にかわって第1位となっていたが、昭和56年に第2位となり、その後昭和60年に第3位となつてからは平成7年・8年を除いて第3位と順位が下降している。

性別にみると、ほぼ同様の傾向となっているが、「脳血管疾患」は、男は昭和53年、女は昭和59年から第2位となっており、「心疾患」は、男は昭和59年、女は昭和61年から第2位となっている。(表2、統計表第2表)

表2 年次別にみた死因順位(第1～5位)の年次推移

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	粗死亡率 (人口10万対)	死因	粗死亡率 (人口10万対)	死因	粗死亡率 (人口10万対)	死因	粗死亡率 (人口10万対)	死因	粗死亡率 (人口10万対)
総 数										
1951 昭和26年	脳血管疾患	125.2	全結核	110.3	肺炎及び気管支炎	82.2	悪性新生物	78.5	老衰	70.7
'55 30	脳血管疾患	136.1	悪性新生物	87.1	老衰	67.1	心疾患	60.9	全結核	52.3
'60 35	脳血管疾患	160.7	悪性新生物	100.4	心疾患	73.2	老衰	58.0	肺炎及び気管支炎	49.3
'65 40	脳血管疾患	175.8	悪性新生物	108.4	心疾患	77.0	老衰	50.0	不慮の事故	40.9
'70 45	脳血管疾患	175.8	悪性新生物	116.3	心疾患	86.7	不慮の事故	42.5	老衰	38.1
'75 50	脳血管疾患	156.7	悪性新生物	122.6	心疾患	89.2	肺炎及び気管支炎	33.7	不慮の事故	30.3
'80 55	脳血管疾患	139.5	悪性新生物	139.1	心疾患	106.2	肺炎及び気管支炎	33.7	老衰	27.6
'85 60	悪性新生物	156.1	心疾患	117.3	脳血管疾患	112.2	肺炎及び気管支炎	42.7	不慮の事故及び有害作用	24.6
'90 平成2年	悪性新生物	177.2	心疾患	134.8	脳血管疾患	99.4	肺炎及び気管支炎	60.7	不慮の事故及び有害作用	26.2
'95 7	悪性新生物	211.6	脳血管疾患	117.9	心疾患	112.0	肺炎	64.1	不慮の事故	36.5
2000 12	悪性新生物	235.2	心疾患	116.8	脳血管疾患	105.5	肺炎	69.2	不慮の事故	31.4
'04 16	悪性新生物	253.9	心疾患	126.5	脳血管疾患	102.3	肺炎	75.7	不慮の事故	30.3
男										
1951 昭和26年	脳血管疾患	126.3	全結核	121.0	老衰	85.6	悪性新生物	81.6	心疾患	64.0
'55 30	脳血管疾患	143.1	悪性新生物	94.0	心疾患	62.2	全結核	60.7	不慮の事故	56.8
'60 35	脳血管疾患	172.1	悪性新生物	111.0	心疾患	75.8	不慮の事故	64.9	肺炎及び気管支炎	53.2
'65 40	脳血管疾患	192.2	悪性新生物	122.1	心疾患	80.5	不慮の事故	63.6	肺炎及び気管支炎	40.1
'70 45	脳血管疾患	192.1	悪性新生物	132.9	心疾患	91.1	不慮の事故	65.6	肺炎及び気管支炎	37.4
'75 50	脳血管疾患	164.2	悪性新生物	140.5	心疾患	92.0	不慮の事故	45.4	肺炎及び気管支炎	36.9
'80 55	悪性新生物	163.7	脳血管疾患	142.9	心疾患	112.2	肺炎及び気管支炎	38.5	不慮の事故及び有害作用	37.0
'85 60	悪性新生物	187.4	心疾患	121.5	脳血管疾患	110.6	肺炎及び気管支炎	49.3	不慮の事故及び有害作用	36.1
'90 平成2年	悪性新生物	216.4	心疾患	135.7	脳血管疾患	95.6	肺炎及び気管支炎	70.0	不慮の事故及び有害作用	36.8
'95 7	悪性新生物	262.0	心疾患	114.4	脳血管疾患	114.2	肺炎	69.6	不慮の事故	46.3
2000 12	悪性新生物	291.3	心疾患	117.3	脳血管疾患	102.7	肺炎	76.0	不慮の事故	40.9
'04 16	悪性新生物	313.5	心疾患	125.8	脳血管疾患	99.9	肺炎	83.3	不慮の事故	38.4
女										
1951 昭和26年	脳血管疾患	124.1	老衰	107.6	全結核	100.1	悪性新生物	75.4	胃腸炎	67.1
'55 30	脳血管疾患	129.4	悪性新生物	80.3	老衰	80.0	心疾患	59.6	肺炎及び気管支炎	45.3
'60 35	脳血管疾患	149.7	悪性新生物	90.2	心疾患	70.8	老衰	70.7	肺炎及び気管支炎	45.6
'65 40	脳血管疾患	160.0	悪性新生物	95.2	心疾患	73.6	老衰	63.1	肺炎及び気管支炎	34.6
'70 45	脳血管疾患	161.4	悪性新生物	101.2	心疾患	83.1	老衰	49.2	肺炎及び気管支炎	31.1
'75 50	脳血管疾患	149.4	悪性新生物	105.2	心疾患	86.4	老衰	34.7	肺炎及び気管支炎	30.6
'80 55	脳血管疾患	136.5	悪性新生物	115.5	心疾患	100.5	老衰	35.4	肺炎及び気管支炎	29.2
'85 60	悪性新生物	125.9	脳血管疾患	113.9	心疾患	113.2	肺炎及び気管支炎	36.3	老衰	29.6
'90 平成2年	悪性新生物	139.3	心疾患	134.0	脳血管疾患	103.0	肺炎及び気管支炎	51.8	老衰	25.8
'95 7	悪性新生物	163.1	脳血管疾患	121.4	心疾患	109.6	肺炎	58.7	不慮の事故	27.0
2000 12	悪性新生物	181.4	心疾患	116.3	脳血管疾患	108.2	肺炎	62.7	老衰	23.7
'04 16	悪性新生物	197.1	心疾患	127.2	脳血管疾患	104.5	肺炎	68.5	老衰	27.8

注:1) 死因順位は人口動態統計、各種分類表の「死因順位に用いる分類項目」によるものである。

2) 昭和26～45年は、沖縄県を含まない。

3) 平成2年までの老衰は、「精神病の記載のない老衰」である。

4) 平成7年以降の「心疾患」は、「心疾患(高血圧性を除く)」である。

5) 平成7年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)平成7年1月1日施行における「死亡の原因欄」には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響によるものと考えられる。

4 粗死亡率及び年齢調整死亡率

(1) 性別にみた年次推移

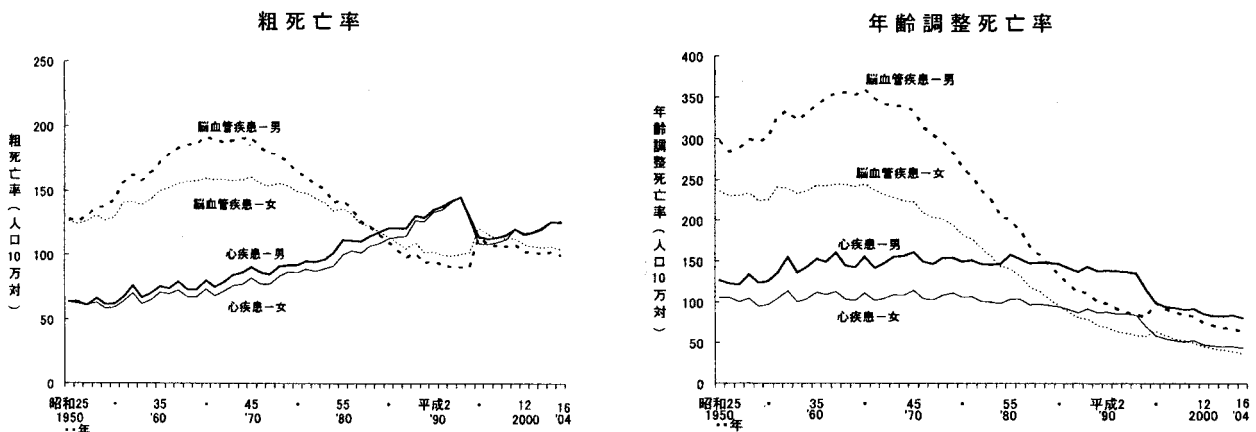
「心疾患」の粗死亡率(人口 10 万対)をみると、平成 5 年までは上昇・低下を繰り返しつつも上昇傾向となっており、平成 6 年から一旦低下したが、平成 9 年からは再び上昇傾向となっている。

「脳血管疾患」の粗死亡率をみると、男女ともに昭和 40 年代をピークに低下傾向にあり、近年は低下から横ばい傾向となっている。

「心疾患」の年齢調整死亡率(人口 10 万対)をみると、昭和 30 年代前半から上昇・低下を繰り返しつつもほぼ横ばいであったものが、平成 6 年から低下に転じている。

「脳血管疾患」の年齢調整死亡率をみると、男は昭和 40 年をピークに大きな山を形成していたが、昭和 40 年代後半から大きく低下している。近年は平成元年以降、低下の幅がやや緩やかになってきている。女は昭和 25 年以降微増傾向でなだらかな山を形成していたが、昭和 38 年をピークに大きく低下し、男と同様に近年は低下の幅が緩やかになってきている。(図 2、統計表第 3 表)

図 2 性別にみた心疾患－脳血管疾患の粗死亡率(人口 10 万対)・年齢調整死亡率(人口 10 万対)の年次推移

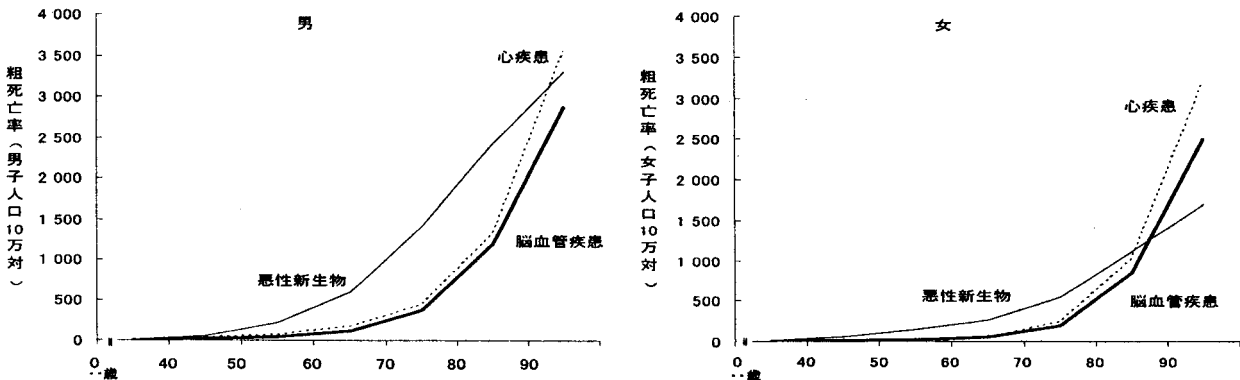


注:平成6年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響によるものと考えられる。

(2) 平成 16 年の状況

平成 16 年の三大死因の粗死亡率(人口 10 万対)を性・年齢階級別にみると、「心疾患」「脳血管疾患」は「悪性新生物」に比べ高年齢で急激に高くなっている(図 3)。

図 3 性・年齢階級別にみた三大死因の粗死亡率(人口 10 万対)－平成 16 年－



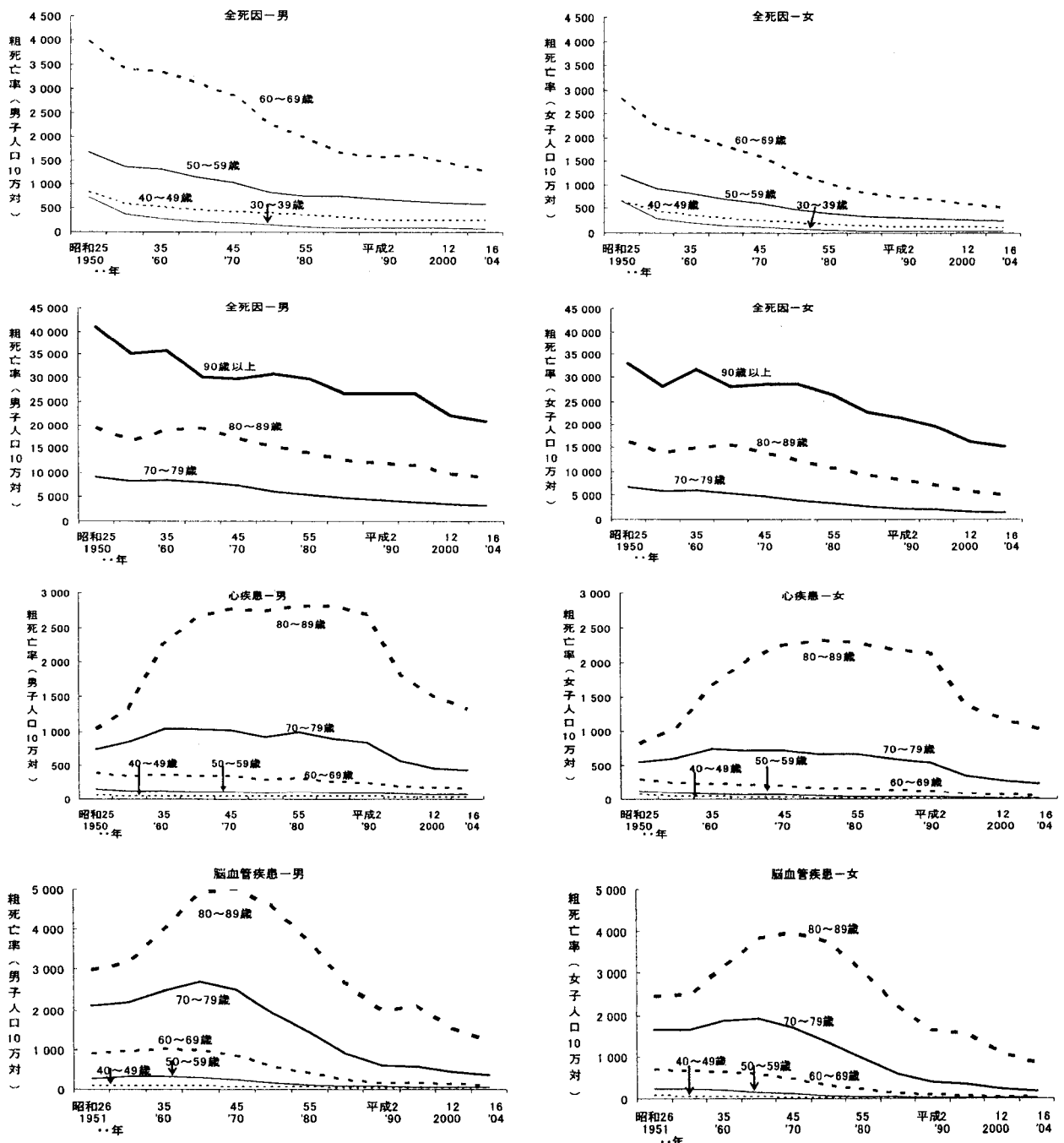
(3) 性・年齢階級別にみた年次推移

「全死因」の粗死亡率（人口 10 万対）を性・年齢階級別に年次推移をみると、男女ともすべての年齢階級で緩やかに低下傾向となっている。

「心疾患」の粗死亡率を性・年齢階級別に年次推移をみると、男女ともに 60 歳代から 80 歳代で平成 6 年に低下した後緩やかに低下傾向となっており、「脳血管疾患」は男女ともに「80～89 歳」は昭和 49 年以降、「70～79 歳」は昭和 41 年以降低下傾向となっている。

なお、「心疾患」「脳血管疾患」の「39 歳以下」「90 歳以上」については、P44・45 統計表第 4・5 表に示しているが、「39 歳以下」は数値が小さく、「90 歳以上」は数値が大きいため、図 4・5・6 では省略する。（図 4、統計表第 4・5 表）

図 4 性・年齢（10 歳階級）別にみた粗死亡率（人口 10 万対）の年次推移



注：昭和 25 年の「脳血管疾患」には、B46.b/352 の一部、B22 の後遺症及び 1 年以上経過したものを含むため、時系列観察は昭和 26 年からとした。

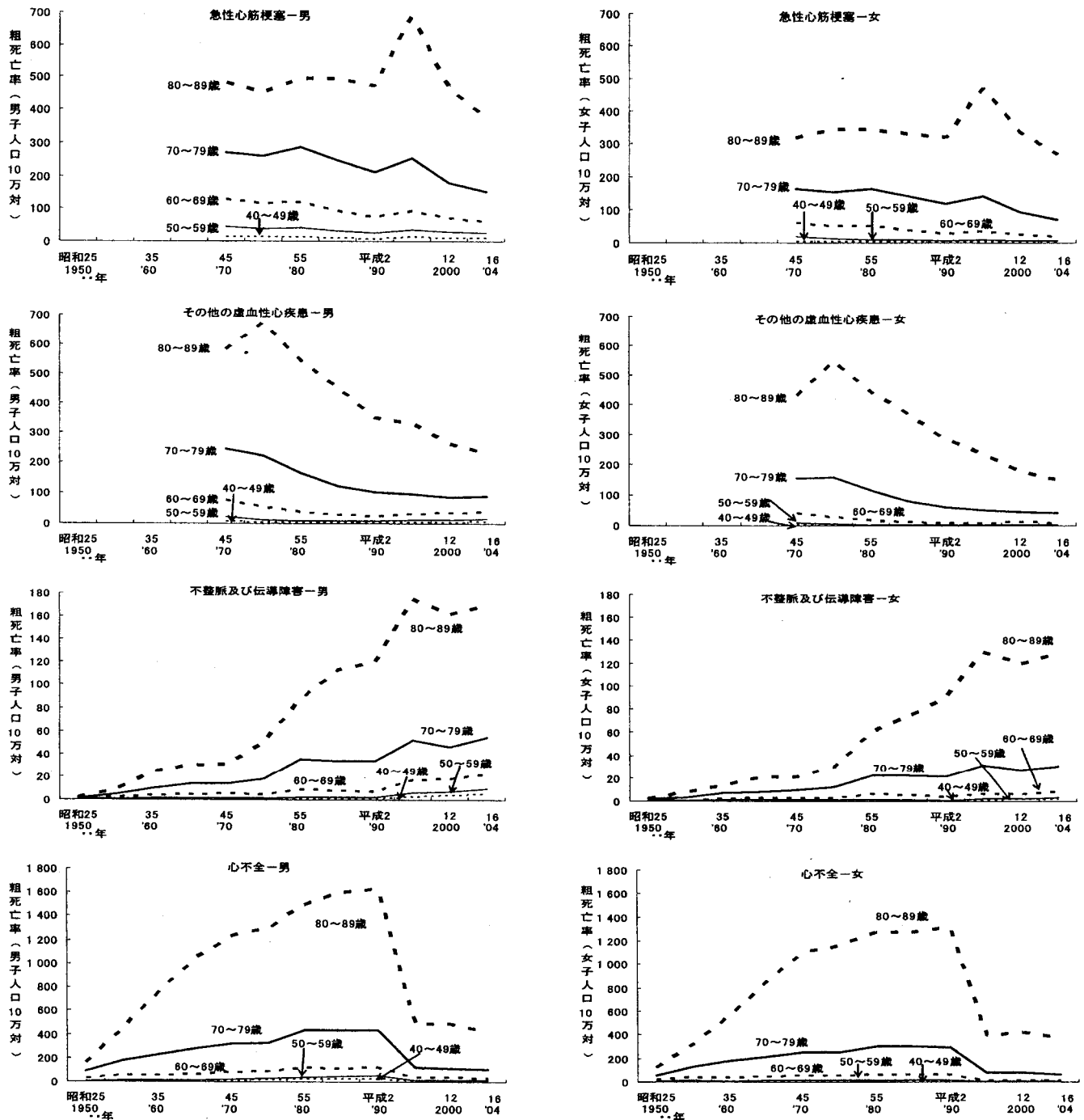
5 病類別にみた心疾患－脳血管疾患死亡の年次推移

(1) 性・年齢階級別にみた心疾患死亡

「心疾患」の病類（死因統計において選択死因と定められているもの）・性・年齢階級別に粗死亡率（人口10万対）をみると、いずれの病類においても年齢階級が高くなるにしたがって粗死亡率が高く、上昇・低下の幅も大きくなっており、性別による差はあまりみられない。

「急性心筋梗塞」は男女ともに横ばいであったものが平成6年にいったん上昇しその後低下している。「その他の虚血性心疾患」は男女ともに「80～89歳」では昭和50年以降低下傾向となっている。「不整脈及び伝導障害」は男女ともにすべての年齢階級で上昇傾向となっている。「心不全」は男女ともにすべての年齢階級で平成6年に大きく低下した後、横ばいとなっている。（図5、統計表第4表）

図5 心疾患の病類・性・年齢(10歳階級)別にみた粗死亡率(人口10万対)の年次推移

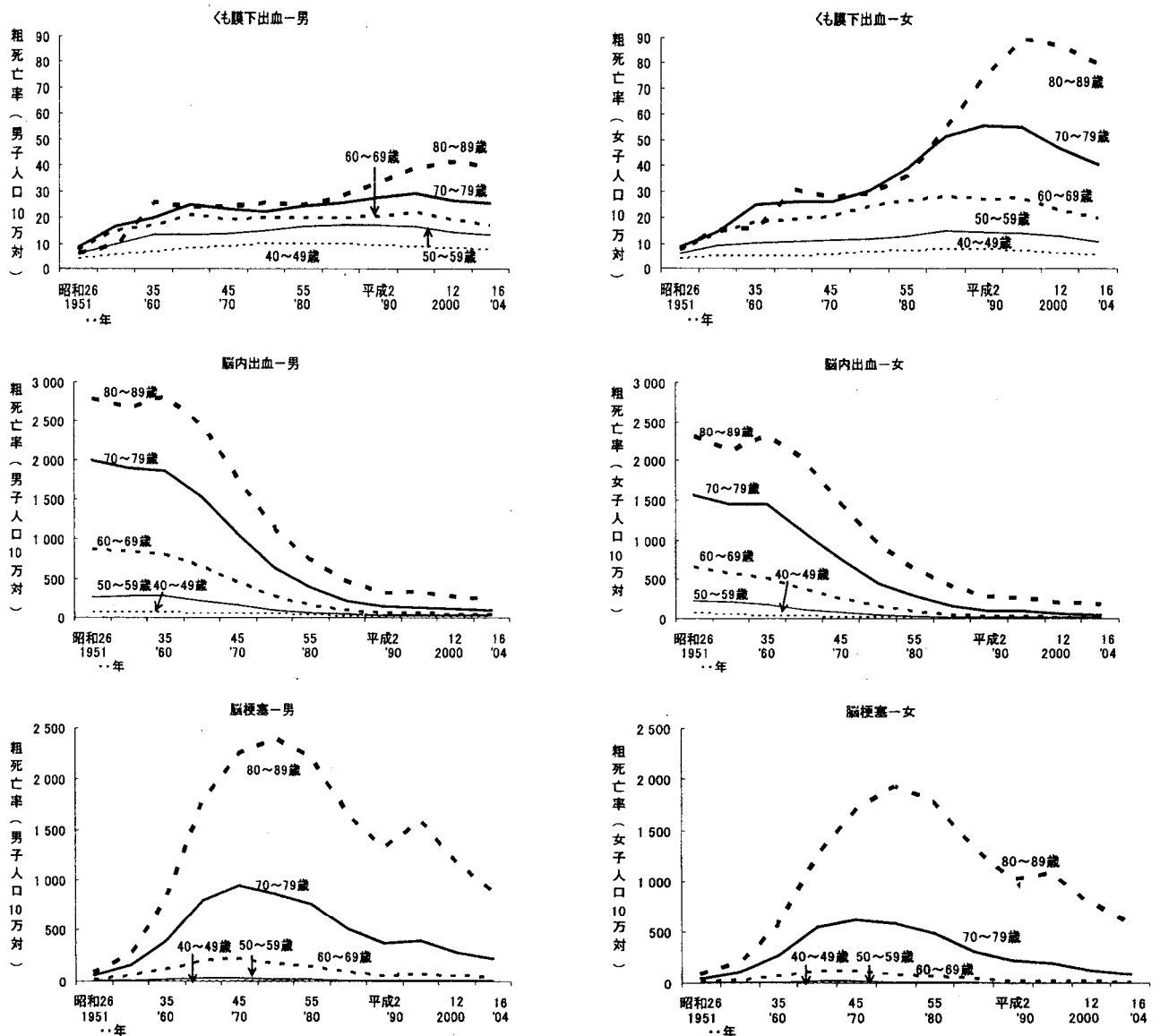


注：「急性心筋梗塞」及び「その他の虚血性心疾患」の昭和44年以前は分類項目がないため表章していない。

(2) 性・年齢階級別にみた脳血管疾患死亡

「脳血管疾患」について病類（死因統計において選択死因と定められているもの）・性・年齢階級別に粗死亡率（人口 10 万対）をみると、「くも膜下出血」は男の 79 歳以下、女の 69 歳以下は横ばいとなっており、女の 70 歳以上は昭和 55 年以降上昇したが、近年低下している。「脳内出血」はいずれの年齢階級も大幅に低下しており、特に高齢者の低下の幅が大きくなっている。「脳梗塞」は 70 歳以上で平成 8 年以降低下している。（図 6、統計表第 5 表）

図 6 脳血管疾患の病類・性・年齢(10 歳階級)別にみた粗死亡率(人口 10 万対)の年次推移



注：昭和 25 年の「脳血管疾患」には、B46、B352 の一部、B22 の後遺症及び 1 年以上経過したものを含まため、時系列観察は昭和 26 年からとした。

6 配偶関係別にみた心疾患－脳血管疾患死亡

平成7年・12年の性・配偶関係別に「心疾患」と「脳血管疾患」の粗死亡率(人口10万対)をみると、どの年齢階級においても男女ともに「有配偶」の粗死亡率が低く、「未婚」「離別」「死別」の粗死亡率が高くなっている(図7、表3)。

性・配偶関係別に「心疾患」と「脳血管疾患」の年齢調整死亡率(人口10万対)をみると、男女とも「有配偶」より、「未婚」「離別」「死別」の年齢調整死亡率が高くなっており、女より男の方が配偶関係による差が大きくなっている。平成7年と平成12年を比較すると、すべての配偶関係で平成12年の方が低くなっている。(図8、表3)

図7 性・年齢(10歳階級)・配偶関係別心疾患－脳血管疾患粗死亡率(人口10万対)－平成12年－

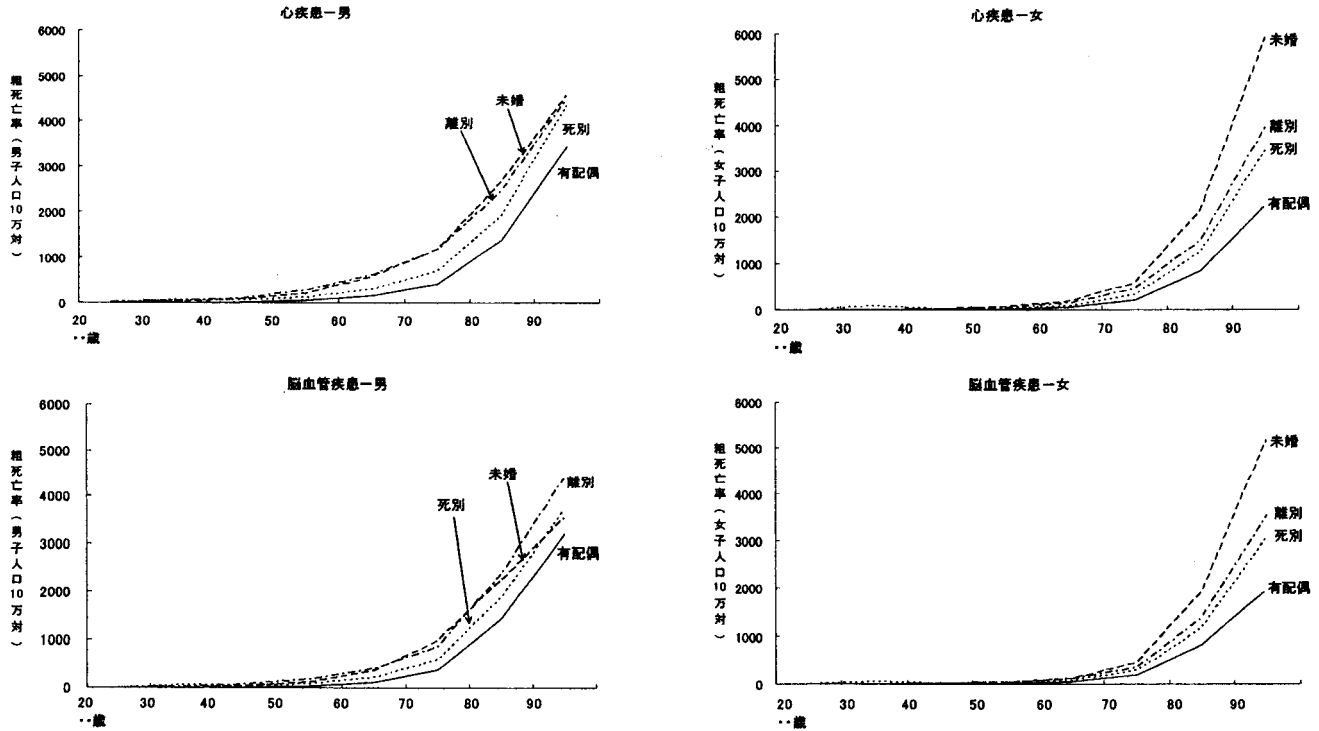
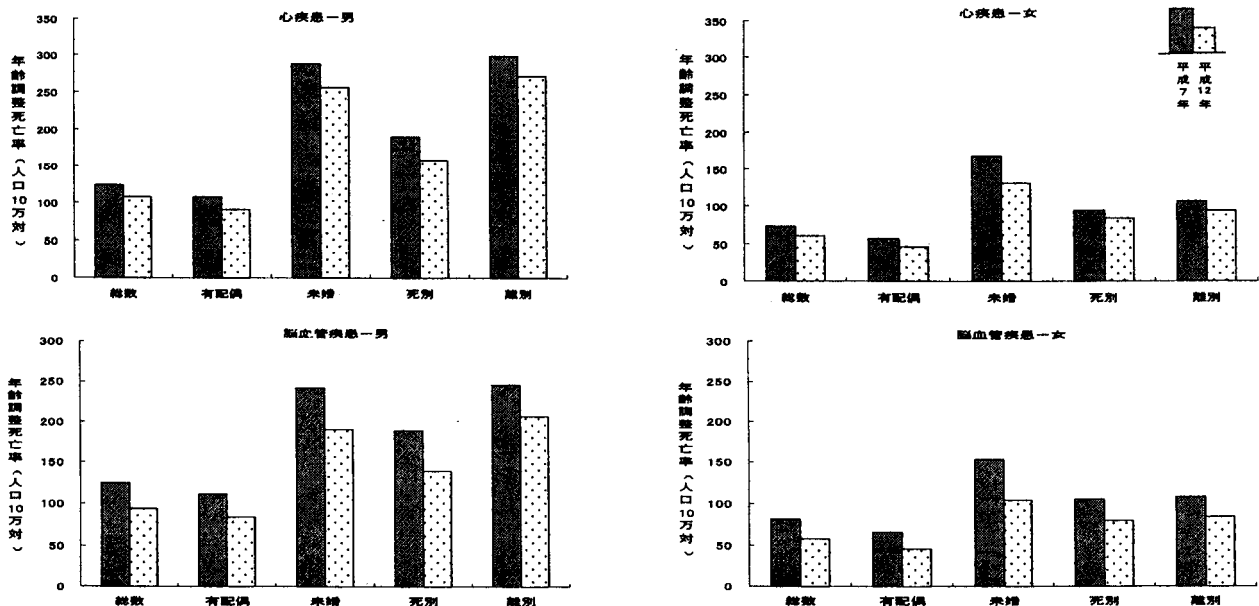


図8 性・配偶関係別心疾患－脳血管疾患年齢調整死亡率(人口10万対)の年次比較



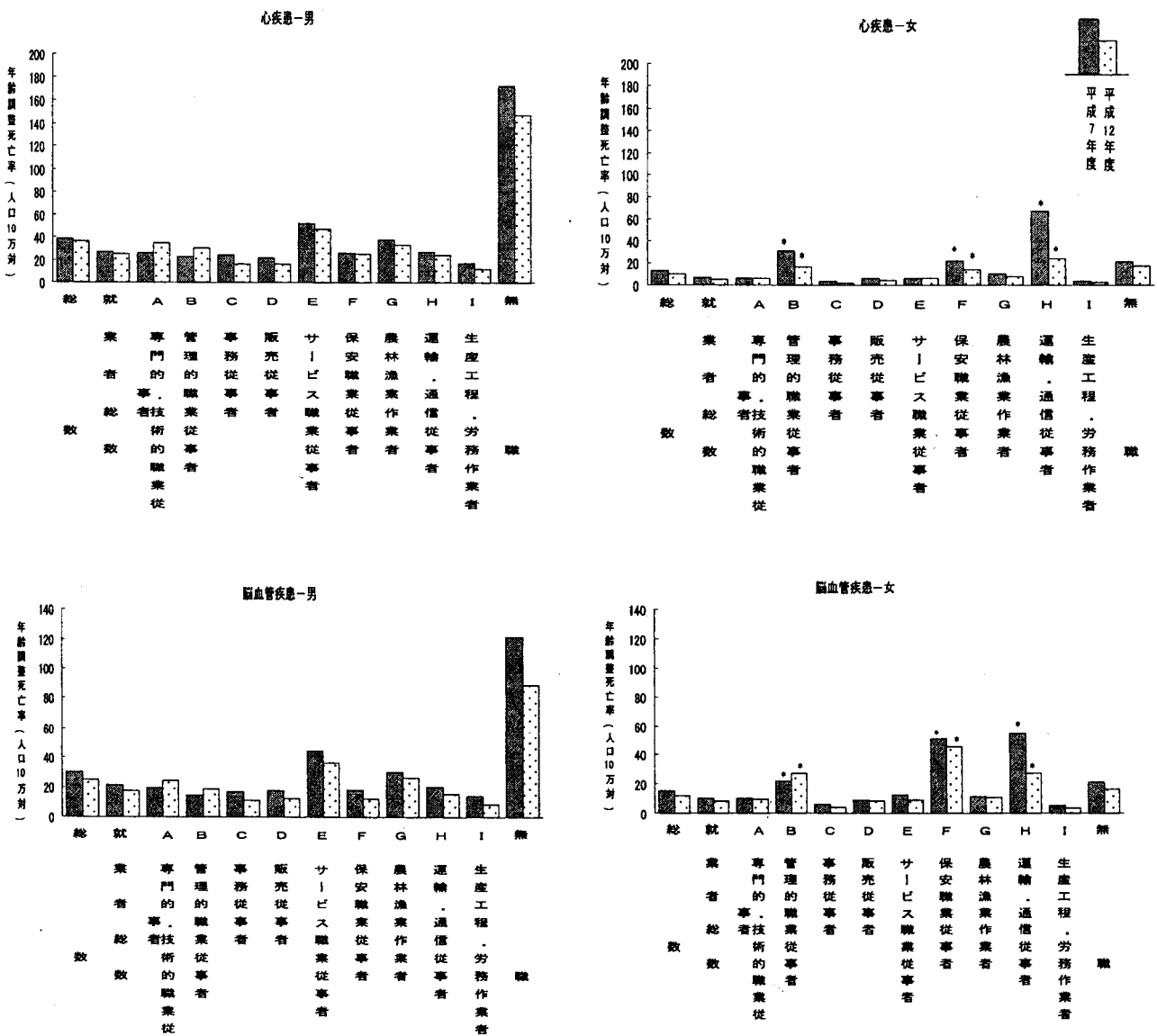
7 職業・産業別にみた心疾患－脳血管疾患死亡（平成7年度・12年度職業・産業別統計）

(1) 職業別の状況

20～64歳の者について、死亡時の職業に基づき、性・職業別に平成12年度の心疾患年齢調整死亡率（人口10万対）をみると、男では「無職」が最も高く、次いで「サービス職業従事者」「専門的・技術的職業従事者」となっており、「専門的・技術的職業従事者」「管理的職業従事者」は、平成7年度に比べ平成12年度は上昇している。

平成12年度の脳血管疾患年齢調整死亡率をみると、男では「心疾患」と同様に「無職」が最も高く、次いで「サービス職業従事者」「農林漁業作業者」となっており、「専門的・技術的職業従事者」「管理的職業従事者」は、平成7年度に比べ平成12年度は上昇している。（図9、表4）

図9 20～64歳の性・職業(大分類)別にみた心疾患－脳血管疾患年齢調整死亡率(人口10万対)
－平成7年度・平成12年度－



注:1) 図中*印の付してある箇所については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。
2) 「職業」は死亡時の職業である。

表4 20～64歳の性・職業(大分類)別にみた心疾患－脳血管疾患死亡数・粗死亡率(人口10万対)・年齢調整死亡率(人口10万対)

職業	平成7年度						平成12年度					
	男			女			男			女		
	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患
	死亡数											
総数	134 921	16 502	13 165	64 328	5 825	6 844	131 635	16 329	11 391	60 831	4 911	5 511
就業者総数	79 277	9 808	7 808	19 717	1 566	2 479	73 130	9 046	6 445	18 633	1 360	2 146
A 専門的・技術的職業従事者	6 994	882	664	1 673	102	184	11 020	1 349	957	2 201	134	216
B 管理的職業従事者	5 225	677	508	738	* 50	* 72	5 000	602	429	695	* 46	* 66
C 事務従事者	8 018	1 018	742	2 760	181	303	6 262	758	531	2 302	122	258
D 販売従事者	8 523	1 084	897	2 409	206	298	7 330	889	691	2 011	146	272
E サービス職業従事者	6 046	767	654	2 813	221	442	6 031	765	579	2 660	230	367
F 保安職業従事者	1 346	198	139	107	* 6	* 12	1 365	228	119	119	* 5	* 13
G 農林漁業作業者	7 083	828	693	2 034	184	284	4 767	529	418	1 286	107	161
H 運輸・通信従事者	5 097	633	508	275	* 35	* 35	4 583	590	398	261	* 22	* 28
I 生産工程・労務作業者	18 971	2 265	1 932	2 497	205	381	12 489	1 563	1 107	1 872	138	256
J 分類不能の職業	11 974	1 456	1 071	4 411	376	468	14 283	1 773	1 216	5 226	410	509
無職	55 644	6 694	5 357	44 611	4 259	4 365	58 505	7 283	4 946	42 198	3 551	3 365
	粗死亡率											
総数	346.6	42.4	33.8	165.7	15.0	17.6	336.9	41.8	29.2	156.8	12.7	14.2
就業者総数	229.9	28.4	22.6	85.2	6.8	10.7	219.6	27.2	19.4	80.4	5.9	9.3
A 専門的・技術的職業従事者	163.7	20.6	15.5	51.5	3.1	5.7	248.6	30.4	21.6	61.3	3.7	6.0
B 管理的職業従事者	254.5	33.0	24.7	371.8	* 25.2	* 36.3	385.4	46.4	33.1	492.1	* 32.6	* 46.7
C 事務従事者	187.2	23.8	17.3	38.4	2.5	4.2	145.5	17.6	12.3	32.1	1.7	3.6
D 販売従事者	154.5	19.7	16.3	76.9	6.6	9.5	131.8	16.0	12.4	66.8	4.8	9.0
E サービス職業従事者	383.8	48.7	41.5	98.7	7.8	15.5	358.1	45.4	34.4	82.9	7.2	11.4
F 保安職業従事者	165.1	24.3	17.1	275.1	* 15.4	* 30.9	156.2	26.1	13.6	248.7	* 10.5	* 27.2
G 農林漁業作業者	573.3	67.0	56.1	191.2	17.3	26.7	509.2	56.5	44.7	168.5	14.0	21.1
H 運輸・通信従事者	234.1	29.1	23.3	233.4	* 29.7	* 29.7	223.2	28.7	19.4	251.8	* 21.2	* 27.0
I 生産工程・労務作業者	153.3	18.3	15.6	48.4	4.0	7.4	105.8	13.2	9.4	38.5	2.8	5.3
無職	1 344.1	161.7	129.4	286.7	27.4	28.1	1 195.5	148.8	101.1	276.5	23.3	22.1
	年齢調整死亡率											
総数	311.9	38.1	30.0	146.0	12.9	15.1	294.5	36.4	25.0	134.8	10.6	11.8
就業者総数	215.8	26.6	20.9	83.8	6.8	10.4	200.1	24.7	17.3	76.4	5.7	8.7
A 専門的・技術的職業従事者	204.0	25.7	19.5	81.0	6.1	10.5	287.3	34.6	24.6	87.2	6.2	9.6
B 管理的職業従事者	174.0	22.0	14.5	283.9	* 30.1	* 21.6	261.7	30.3	18.6	340.0	* 16.6	* 27.3
C 事務従事者	189.5	24.2	17.0	48.9	3.7	5.8	134.8	16.4	11.2	35.7	1.9	4.1
D 販売従事者	170.0	21.4	17.4	73.3	6.5	8.9	133.3	16.2	12.4	61.9	4.5	8.3
E サービス職業従事者	403.5	51.7	44.3	84.8	6.4	12.7	364.8	46.4	35.9	72.1	6.3	9.3
F 保安職業従事者	174.1	25.7	18.3	449.8	* 22.1	* 51.2	147.1	24.7	12.5	356.1	* 14.3	* 45.9
G 農林漁業作業者	334.8	37.3	29.9	112.0	10.1	11.7	318.3	33.4	25.9	95.3	7.7	10.7
H 運輸・通信従事者	212.6	26.1	20.0	394.8	* 67.5	* 54.9	187.5	23.5	15.5	298.8	* 23.2	* 27.3
I 生産工程・労務作業者	144.2	17.2	14.5	39.4	3.1	5.6	96.9	12.1	8.4	29.8	2.2	3.8
無職	1 398.7	171.5	121.8	231.5	20.8	21.1	1 172.3	147.1	88.7	221.2	17.4	16.4

注:1)「J 分類不能の職業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

3)「職業」は死亡時の職業である。

(2) 産業別の状況

20～64歳の者について、死亡時の産業に基づき、性・産業別に平成12年度の「心疾患」と「脳血管疾患」の年齢調整死亡率(人口10万対)をみると、男では「無業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「農業」が高くなっている(表5)。

表5 20～64歳の性・産業(大分類)別にみた心疾患－脳血管疾患死亡数・粗死亡率(人口10万対)
・年齢調整死亡率(人口10万対)

産業	平成7年度						平成12年度					
	男			女			男			女		
	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患	全死因	心疾患	脳血管疾患
死亡数												
総数	134 921	16 502	13 165	64 328	5 825	6 844	131 635	16 329	11 391	60 831	4 911	5 511
就業者総数	79 277	9 808	7 808	19 717	1 566	2 479	73 130	9 046	6 445	18 633	1 360	2 146
第1次産業	7 993	942	801	2 272	194	312	5 845	673	506	1 519	110	192
A 農業	6 334	777	637	1 994	170	281	4 505	517	394	1 320	* 93	166
B 林業	472	* 47	* 47	* 65	* 4	* 5	380	* 52	* 29	* 40	* 3	* 6
C 漁業	1 187	118	117	213	* 20	* 26	960	104	* 83	159	* 14	* 20
第2次産業	23 642	2 900	2 368	3 411	270	454	20 160	2 482	1 842	2 954	185	377
D 鉱業	961	122	103	157	* 12	* 23	805	* 86	* 88	123	* 6	* 14
E 建設業	11 391	1 332	1 151	924	* 79	121	9 733	1 159	846	897	* 61	108
F 製造業	11 290	1 446	1 114	2 330	179	310	9 622	1 237	908	1 934	118	255
第3次産業	31 945	4 066	3 203	8 685	647	1 131	29 410	3 697	2 596	8 050	583	974
G 電気・ガス・熱供給・水道業	1 901	226	176	219	* 12	* 26	1 649	188	152	186	* 15	* 17
H 運輸・通信業	5 697	726	550	398	* 41	* 51	5 245	689	415	408	* 32	* 38
I 卸売・小売業・飲食店	8 834	1 068	941	2 864	242	389	7 586	904	707	2 442	182	326
J 金融・保険業	1 089	129	100	394	* 29	* 42	914	118	102	291	* 21	* 37
K 不動産業	839	111	* 77	178	* 8	* 15	736	105	* 51	160	* 14	* 13
L サービス業	10 228	1 365	1 051	3 899	273	533	10 166	1 295	926	3 918	289	482
M 公務	3 357	441	308	733	* 42	* 75	3 114	398	243	645	* 30	* 61
N 分類不能の産業	15 697	1 900	1 436	5 349	455	582	17 715	2 194	1 501	6 110	482	603
無業	55 644	6 694	5 357	44 611	4 259	4 365	58 505	7 283	4 946	42 198	3 551	3 365
粗死亡率												
総数	346.6	42.4	33.8	165.7	15.0	17.6	336.9	41.8	29.2	156.8	12.7	14.2
就業者総数	229.9	28.4	22.6	85.2	6.8	10.7	219.6	27.2	19.4	80.4	5.9	9.3
第1次産業	652.6	76.9	65.4	208.0	17.8	28.6	632.0	72.8	54.7	190.5	13.8	24.1
A 農業	645.2	79.2	64.9	196.3	16.7	27.7	606.5	69.6	53.0	178.6	* 12.6	22.5
B 林業	825.9	* 82.2	* 82.2	* 549.5	* 33.8	* 42.3	921.2	* 126.1	* 70.3	* 450.0	* 33.8	* 67.5
C 漁業	638.3	63.5	62.9	328.6	* 30.9	* 40.1	682.0	73.9	* 59.0	321.9	* 28.3	* 40.5
第2次産業	179.6	22.0	18.0	61.8	4.9	8.2	163.9	20.2	15.0	62.0	3.9	7.9
D 鉱業	1 993.9	253.0	213.7	1 952.0	* 149.2	* 286.0	1 932.2	* 206.4	* 211.2	1 618.0	* 78.9	* 184.2
E 建設業	224.0	26.2	22.6	94.4	* 8.1	12.4	199.5	23.8	17.3	102.9	* 7.0	12.4
F 製造業	140.6	18.0	13.9	51.4	3.9	6.8	130.3	16.8	12.3	49.8	3.0	6.6
第3次産業	160.5	20.4	16.1	53.1	4.0	6.9	149.1	18.7	13.2	46.4	3.4	5.6
G 電気・ガス・熱供給・水道業	634.9	75.5	58.8	414.8	* 22.7	* 49.2	557.0	63.5	51.3	381.3	* 30.7	* 34.8
H 運輸・通信業	183.0	23.3	17.7	64.5	* 6.6	* 8.3	172.9	22.7	13.7	57.9	* 4.5	* 5.4
I 卸売・小売業・飲食店	132.4	16.0	14.1	44.5	3.8	6.0	121.2	14.4	11.3	37.6	2.8	5.0
J 金融・保険業	121.3	14.4	11.1	39.3	* 2.9	* 4.2	111.9	14.5	12.5	32.9	* 2.4	* 4.2
K 不動産業	246.4	32.6	* 22.6	81.6	* 3.7	* 6.9	211.3	30.1	* 14.6	71.4	* 6.3	* 5.8
L サービス業	145.7	19.4	15.0	51.6	3.6	7.1	137.2	17.5	12.5	46.2	3.4	5.7
M 公務	215.6	28.3	19.8	151.0	* 8.6	* 15.4	200.5	25.6	15.6	131.2	* 6.1	* 12.4
無業	1 344.1	161.7	129.4	286.7	27.4	28.1	1 195.5	148.8	101.1	276.5	23.3	22.1
年齢調整死亡率												
総数	311.9	38.1	30.0	146.0	12.9	15.1	294.5	36.4	25.0	134.8	10.6	11.8
就業者総数	215.8	26.6	20.9	83.8	6.8	10.4	200.1	24.7	17.3	76.4	5.7	8.7
第1次産業	404.1	46.1	37.1	145.9	9.1	13.2	425.4	46.2	33.7	123.2	7.5	13.9
A 農業	373.9	44.3	35.2	122.5	7.9	12.3	393.1	44.6	32.3	110.1	* 7.1	11.5
B 林業	548.2	* 48.9	* 55.8	* 464.0	* 16.2	* 19.0	648.7	* 70.5	* 38.9	* 291.5	* 11.1	* 54.3
C 漁業	485.0	50.5	41.8	327.8	* 23.4	* 24.5	515.7	49.1	* 39.1	262.2	* 14.4	* 36.8
第2次産業	165.4	20.1	16.2	57.1	4.5	7.4	147.1	18.0	13.0	53.7	3.5	6.5
D 鉱業	1 592.0	195.9	158.7	1 661.8	* 126.0	* 242.5	1 519.5	* 164.2	* 151.9	1 366.4	* 59.2	* 135.0
E 建設業	196.2	22.5	19.1	88.3	* 7.4	11.4	172.5	20.2	14.3	89.1	* 6.4	10.1
F 製造業	134.4	17.1	13.1	47.3	3.6	6.1	120.4	15.5	11.1	42.9	2.7	5.5
第3次産業	160.3	20.4	15.8	56.8	4.5	7.5	140.2	17.7	12.2	46.8	3.5	5.7
G 電気・ガス・熱供給・水道業	812.5	102.4	69.7	659.8	* 45.4	* 101.5	638.3	74.2	61.3	551.6	* 46.6	* 49.7
H 運輸・通信業	173.7	22.0	16.0	83.2	* 10.8	* 11.6	150.9	19.9	11.3	66.3	* 4.9	* 6.5
I 卸売・小売業・飲食店	137.6	16.6	14.4	44.9	4.0	6.0	118.4	14.2	10.9	35.6	2.7	4.7
J 金融・保険業	129.5	15.5	11.6	59.5	* 5.4	* 6.5	112.9	15.4	11.7	44.0	* 3.2	* 6.3
K 不動産業	179.1	23.1	* 16.2	65.3	* 2.6	* 5.4	150.0	19.7	* 9.2	55.1	* 4.5	* 3.7
L サービス業	144.0	19.1	14.8	56.5	4.2	7.9	130.5	16.6	11.8	47.9	3.7	6.0
M 公務	255.8	33.9	23.8	152.6	* 9.5	* 15.4	202.3	27.1	15.8	129.2	* 6.3	* 12.0
無業	1 398.7	171.5	121.8	231.5	20.8	21.1	1 172.3	147.1	88.7	221.2	17.4	16.4

注: 1) 「N 分類不能の産業」には仕事の有無不詳を含む。

2) 表中*印の付してある数値については、発生件数が100未満のもので数値が特に不安定であることに注意する必要がある。

3) 「産業」は死亡時の産業である。

8 都道府県別にみた心疾患－脳血管疾患死亡

(1) 性別にみた年齢調整死亡率

平成16年の「心疾患」と「脳血管疾患」の年齢調整死亡率（人口10万対）を都道府県別にみると、「心疾患」の男では青森県が最も高く、次いで愛媛県、岩手県、女では愛媛県が最も高く、次いで埼玉県、徳島県となっている。「脳血管疾患」の男では青森県が最も高く、次いで岩手県、秋田県、女では岩手県が最も高く、次いで青森県、栃木県となっている。（表6、図10）

表6 性・都道府県別にみた心疾患－脳血管疾患年齢調整死亡率(人口10万対)の年次比較と65歳平均余命

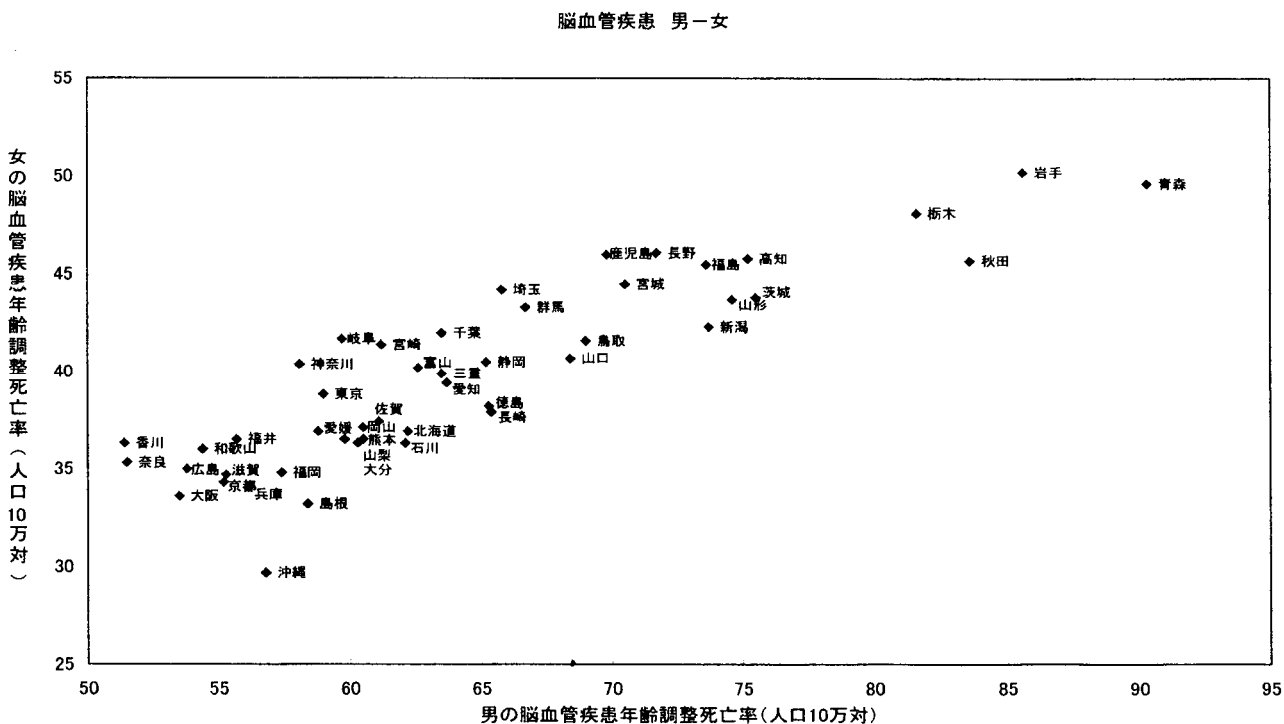
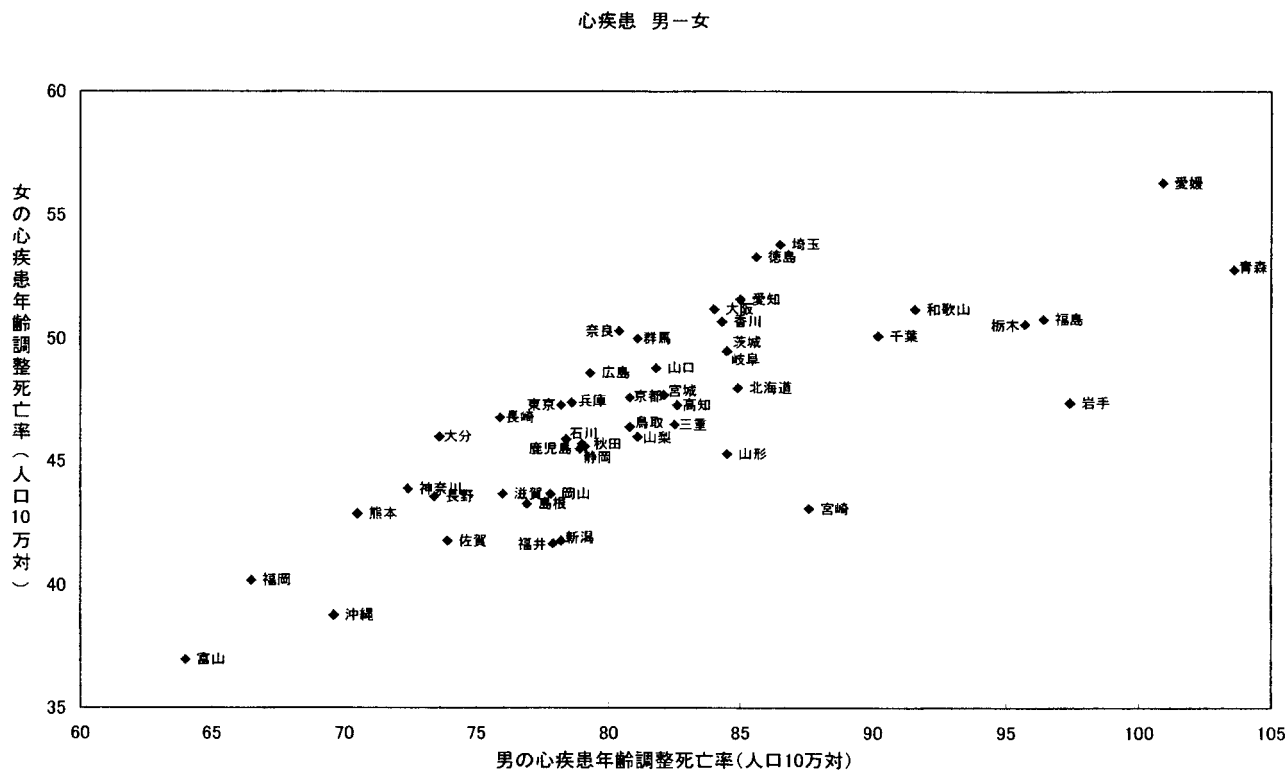
都道府県	年齢調整死亡率(人口10万対)								65歳平均余命	
	心疾患				脳血管疾患				平成12年都道府県別生命表 (単位:年)	
	男		女		男		女		男	女
	平成12年	平成16年 注:1,3) を参照	平成12年	平成16年 注:1,3) を参照	平成12年	平成16年 注:1,3) を参照	平成12年	平成16年 注:1,3) を参照		
全 国	85.8	80.6 (80.1)	48.5	44.2 (44.0)	74.2	62.5 (62.2)	45.7	37.0 (36.9)	17.56	22.46
北海道	87.3	84.9	50.1	48.0	72.1	62.2	43.7	36.9	17.79	22.87
青森県	102.5	103.6	53.5	52.8	102.7	90.3	51.6	49.6	16.52	21.87
岩手県	85.4	97.4	47.8	47.4	92.6	85.6	51.9	50.2	17.33	22.51
宮城県	81.3	82.1	47.3	47.7	87.1	70.5	50.7	44.5	17.53	22.48
秋田県	74.3	79.0	45.2	45.7	91.1	83.6	57.6	45.7	17.05	22.12
山形県	84.3	84.5	45.4	45.3	83.1	74.6	52.7	43.7	17.57	22.18
福島県	96.9	96.4	52.3	50.8	83.1	73.6	53.7	45.5	17.19	22.19
茨城県	88.7	84.5	50.3	49.5	85.1	75.5	54.6	43.8	17.29	22.12
栃木県	95.9	95.7	54.5	50.6	90.0	81.6	56.1	48.1	17.26	22.06
群馬県	88.5	81.1	49.0	50.0	77.6	66.7	53.5	43.3	17.63	22.28
埼玉県	92.7	86.5	53.8	53.8	77.3	65.8	50.2	44.2	17.55	22.14
千葉県	90.6	90.2	54.7	50.1	77.1	63.5	45.5	42.0	17.67	22.25
東京都	87.5	78.2	49.8	47.3	71.3	59.0	46.1	38.8	17.79	22.26
神奈川県	79.1	72.4	43.7	43.9	71.2	58.1	48.1	40.4	17.78	22.50
新潟県	77.9	78.2	41.2	41.8	79.4	73.7	47.0	42.3	17.60	22.85
富山県	73.8	64.0	40.9	37.0	72.2	62.6	44.8	40.2	17.79	22.99
石川県	85.8	78.4	47.9	45.9	71.8	62.1	39.3	36.3	17.55	22.90
福井県	81.7	77.9	41.3	41.7	61.3	55.7	35.8	36.5	17.93	23.05
山梨県	88.1	81.1	46.0	46.0	64.2	60.5	39.9	36.5	17.85	23.01
長野県	78.7	73.4	39.8	43.6	87.3	71.7	53.4	46.1	18.38	22.91
岐阜県	86.3	84.5	52.8	49.5	74.6	59.7	43.8	41.7	17.67	22.22
静岡県	84.0	79.1	48.8	45.6	77.4	65.2	46.9	40.5	17.67	22.60
愛知県	92.5	85.0	55.8	51.6	73.5	63.7	47.0	39.4	17.48	22.02
三重県	86.5	82.5	49.7	46.5	74.0	63.5	42.7	39.9	17.51	22.39
滋賀県	78.8	76.0	47.3	43.7	62.9	55.3	42.6	34.7	17.41	22.48
京都府	84.7	80.8	49.7	47.6	63.5	55.2	41.2	34.3	17.74	22.63
大阪府	89.3	84.0	51.9	51.2	63.4	53.5	38.8	33.6	16.98	21.93
兵庫県	84.1	78.6	50.2	47.4	64.1	56.2	40.6	34.1	17.42	22.19
奈良県	84.5	80.4	52.8	50.3	61.8	51.5	42.2	35.3	17.70	22.34
和歌山県	101.8	91.6	53.6	51.2	69.2	54.4	42.0	36.0	17.23	22.17
鳥取県	92.5	80.8	47.4	46.4	78.4	69.0	49.1	41.6	17.46	22.75
島根県	72.0	76.9	40.4	43.3	70.8	58.4	37.6	33.2	17.77	23.27
岡山県	82.1	77.8	42.6	43.7	69.4	60.5	44.0	37.1	17.73	22.97
広島県	82.7	79.3	46.7	48.6	68.6	53.8	39.9	35.0	17.66	22.82
山口県	79.2	81.8	52.5	48.8	77.1	68.4	47.7	40.7	17.21	22.49
徳島県	92.1	85.6	49.7	53.3	77.2	65.3	42.7	38.2	17.37	22.38
香川県	89.9	84.3	50.6	50.7	64.2	51.4	44.7	36.3	17.82	22.70
愛媛県	99.1	100.9	51.6	56.3	73.3	58.8	42.9	36.9	17.73	22.53
高知県	96.1	82.6	49.0	47.3	82.3	75.2	48.7	45.8	17.62	22.84
福岡県	71.2	66.5	41.3	40.2	68.1	57.4	42.4	34.8	17.31	22.60
佐賀県	79.6	73.9	42.9	41.8	67.8	61.1	44.1	37.4	17.34	22.82
長崎県	81.6	75.9	43.8	46.8	72.7	65.4	45.1	37.9	17.36	22.69
熊本県	74.4	70.5	43.4	42.9	64.9	59.8	39.8	36.5	18.15	23.08
大宮	91.1	73.6	50.7	46.0	75.9	60.3	44.0	36.3	17.70	22.41
鹿 児 島	83.4	87.6	44.8	43.1	73.5	61.2	48.2	41.4	17.72	23.05
沖 縄	84.7	78.9	44.9	45.5	85.8	69.8	49.7	46.0	17.38	22.56
	78.9	69.6	39.6	38.8	63.5	56.8	30.0	29.7	18.45	24.10

注:1) 年齢調整死亡率の基準人口は、昭和60年モデル人口である。ただし、平成16年都道府県別年齢調整死亡率算出にあたっては、80歳以上を一括して用いた。
 2) 平成12年の年齢調整死亡率と平成16年の全国の年齢調整死亡率の算出に用いている粗死亡率は、国勢調査日本人口（5歳階級、85歳以上一括）により算出している。
 3) 平成16年の都道府県（全国のカッコ書きを含む）別年齢調整死亡率の算出に用いている粗死亡率は、10月1日現在推計人口（5歳階級、全国=85歳以上一括、都道府県=80歳以上一括）の総人口により算出している。
 4) 都道府県は死亡した人の住所による。
 5) 65歳平均余命は平成12年都道府県別生命表による。

平成 16 年の都道府県別の年齢調整死亡率（人口 10 万対）を性別にみると、「心疾患」「脳血管疾患」ともに男の年齢調整死亡率が高い県は女の年齢調整死亡率が高くなっている（表 6、図 10）。

図 10 男の年齢調整死亡率(人口 10 万対)と女の年齢調整死亡率(人口 10 万対)の関係

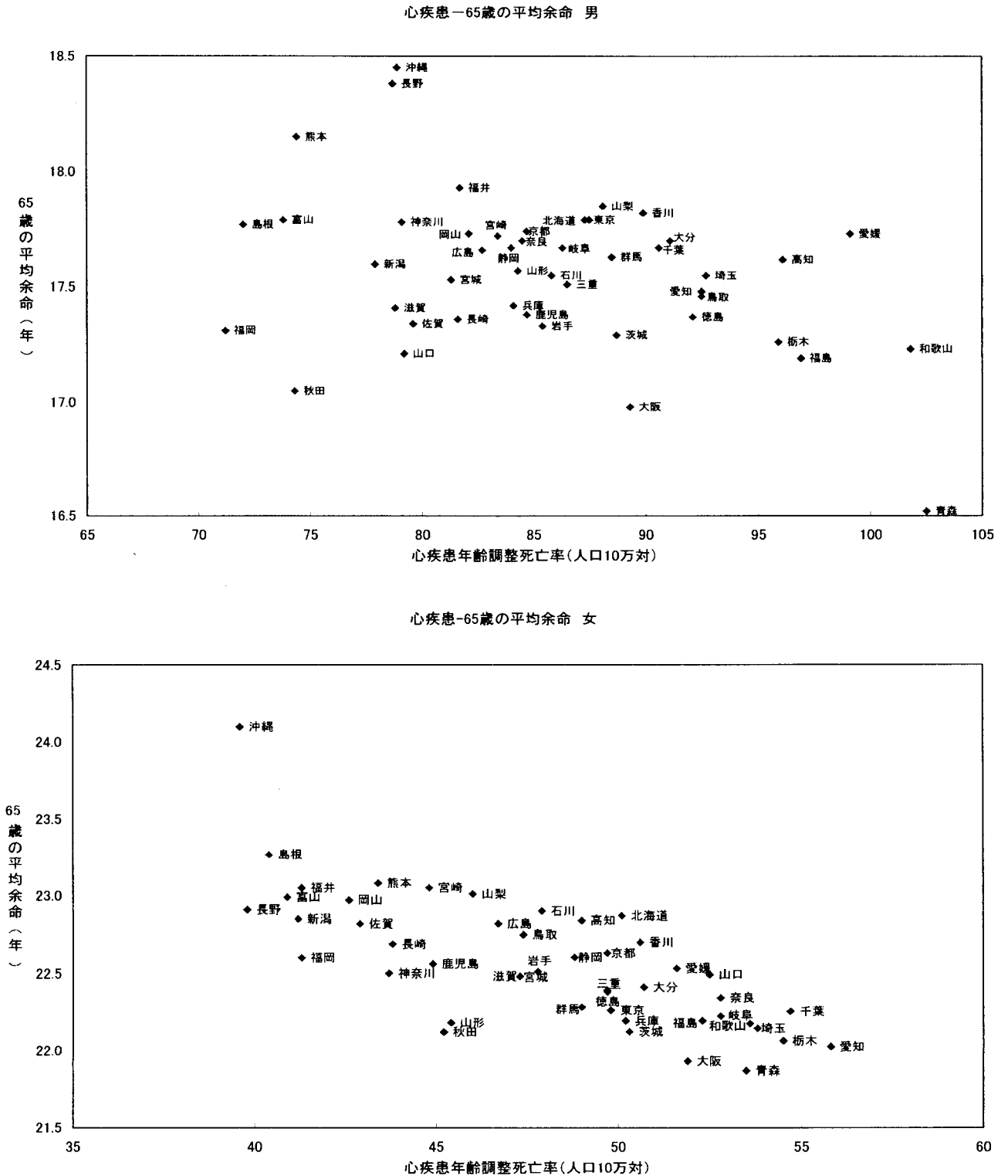
－平成 16 年－



(2) 年齢調整死亡率と65歳平均余命の関係

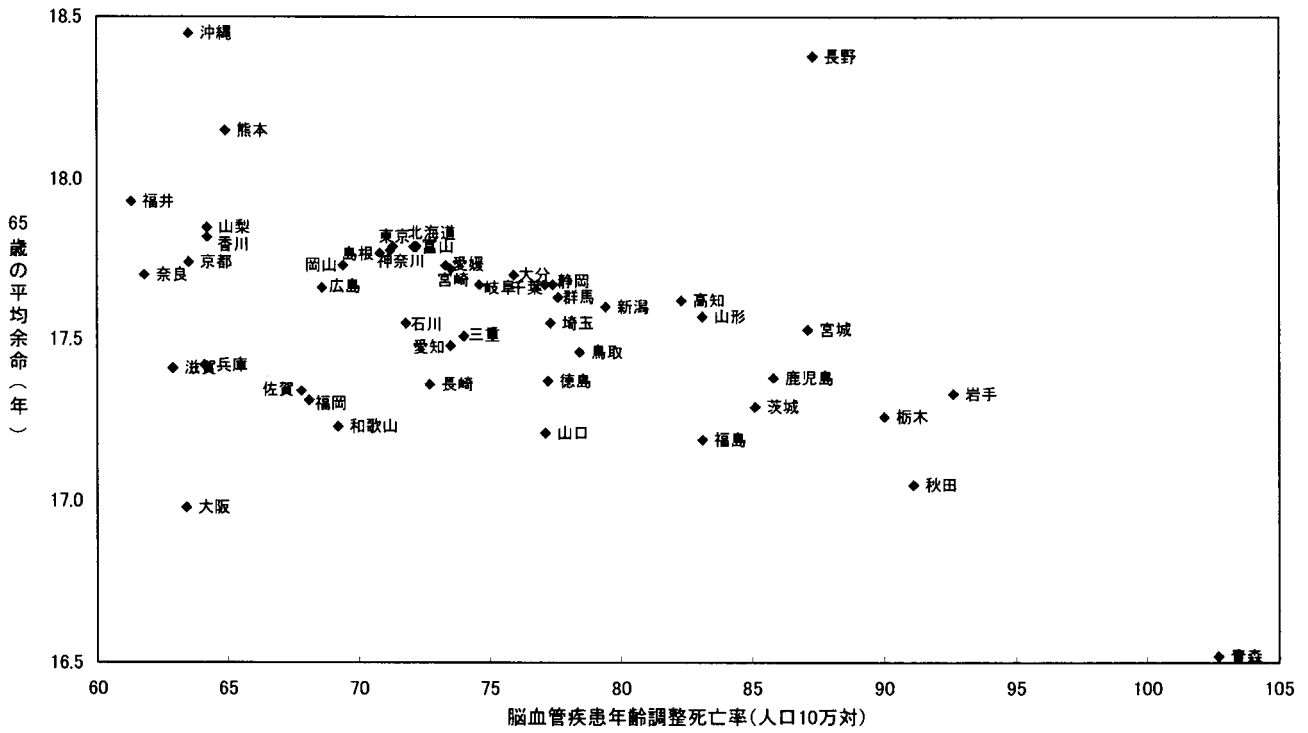
都道府県別に平成12年の「心疾患」と「脳血管疾患」の年齢調整死亡率（人口10万対）と平成12年都道府県別生命表の65歳平均余命との関係を見ると、両疾患とも女では年齢調整死亡率が低い都道府県の平均余命が長くなる傾向がある（表6、図11）。

図11 年齢調整死亡率(人口10万対)と65歳平均余命の関係 -平成12年-

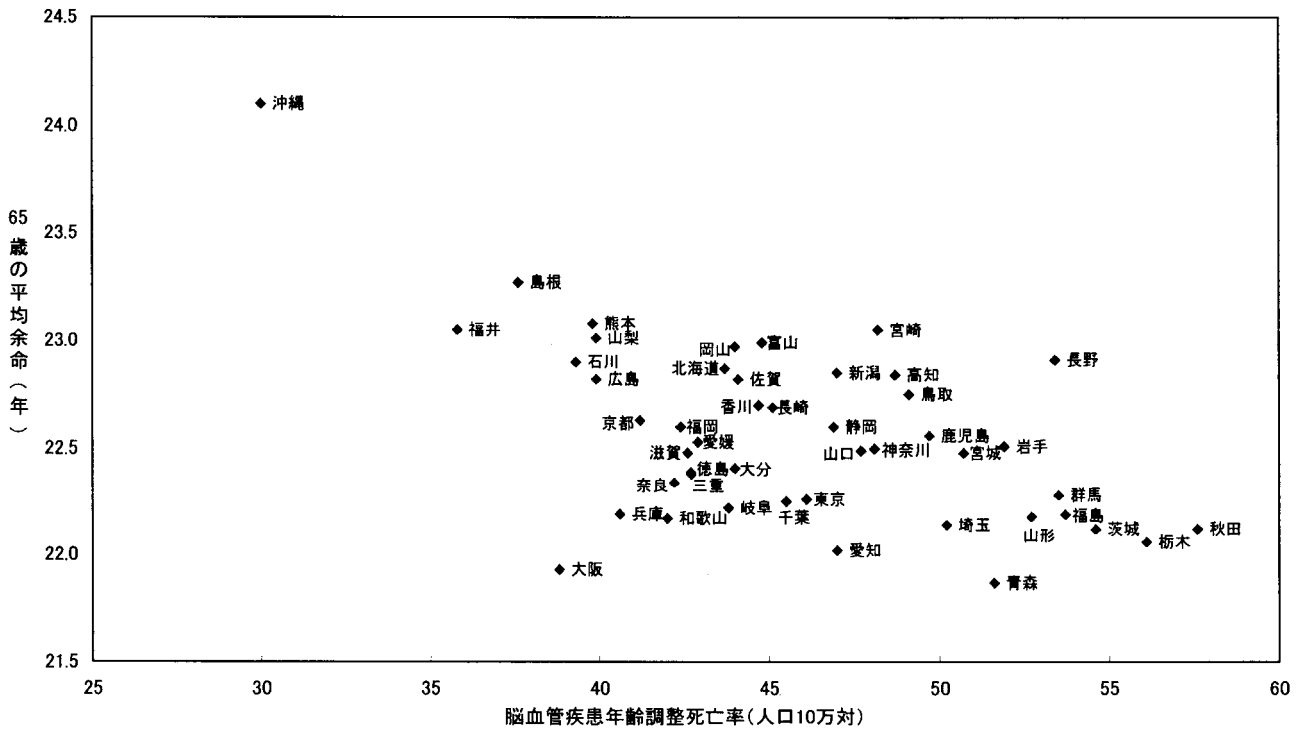


注:「65歳平均余命」は平成12年都道府県別生命表による。

脳血管疾患-65歳の平均余命 男



脳血管疾患-65歳の平均余命 女



注:「65歳平均余命」は平成12年都道府県別生命表による。